## 待機者50万人以上！――特別養護老人ホームはここが違う

# 働く人・住む人のため、そういう施設を増やすべき！

### 社会福祉法人 合掌苑（東京都町田市）

離職率が高い業界で、ここ3年、離職者（1年以内）ゼロ。それは、'12年から職員の採用方法を大幅に見直したことにある。

「'09年の年間離職者は10％を超えていました。サービスの品質向上のためには、長く働いているスタッフが多いことが重要なポイントですし、人が足りなくなると〝誰でもいいから採用しなきゃ！〟と誤った判断をしてしまうことがある。まず見直したのが、採用のプロセスです。合掌苑の理念に共感し『ここで働きたい』という気持ちの高い人材を採用するプロセスを作りました。まずは面接をして、通過した人には4日間のインターンシップをしてもらいます。身体の介助も含めて、現場をしっかり見ていただきます。その後、グループワークや面接を繰り返し、本当にここで仕事がしたいかどうか、確認します」（採用担当・加藤洋子さん）

以前は学歴や専門的な知識を重視し、採用していたが、そうした意識も変え、人間性に着目している。働き始めてからの環境改善にも力を入れた。

「日勤、夜勤と勤務時間が不規則なのは、スタッフにとって負担になる。そこで、'11年から夜勤専従スタッフを確保するようにしました。また、10日～2週間の連続休暇も取得できるようにしています。身心共に健康な状態でいることが、サービスの質の向上や安定、入居者様にとって安心した生活につながると考えています」（お客様相談室マネジャー・神尾昌志さん）

### 介護老人福祉施設 田子のまち（宮城県仙台市）

入居者の生活リズムや個性を尊重する新しい介護スタイル「ユニットケア」は、〝まるで家に住んでいるよう〟な気持ちにしてくれる。施設長の丸田礼子さん（以下、「」内同）が言う。

「老人ホームに来る理由はひとつ、〝家で暮らせなくなったから〟だと思います。本当は家にいたいけど、なんらかの事情で、ここを新しい家として選択された。ですから、ここはそれまでの生活をできるだけ継続して、自分が自分らしくいられる場所でないといけないと考えました。

全室個室で、10人を1つの家族（ユニット）として生活していただきます。ユニットごとにお風呂や洗濯機など共用スペースがあり、それぞれの個室にはトイレ、洗面台、ベッドが完備されていますが、自宅で使用していた家具や趣味のものを持ってきて、自分の部屋として使ってもらうことが可能です。食事やお風呂の時間は決まっておらず、好きな時にご飯を食べ、入浴できます」

希望すれば個室で食事をとることもできるなど、生活スタイルはかなり自由だ。また、地域とのかかわりも大切にしている。

「ここは地域の中の1つの〝家〟なので、地域の人がどんどん入ってこられるような施設にしようと、地域の人も自由に使えるレストランを施設内に作りました。

今後は施設内で地域のかたの敬老会を開いたり、スペースを開放することも考えています」

＊

夢のような施設だが、現実は厳しく特養は今や待機者52万といわれる。少しでも、その入り口に近づくため、介護や条件の確保など、できることを尽くしたい。安倍政権が本当に介護環境を整えたいのなら、少しでも理想に近い施設を増やすべきだ。

ガラス張りの共有スペース（上）と、慣れ親しんだ家具が並ぶ個室（下）。（いずれも、「田子のまち」）